

として良い人だ」と考えながら的をしぼつてゆくことです。次に希望的観測を加えます。このクラブの分類表は多過ぎるので、必要が無いのは削除して下さい。11月1日までに協議会や理事会で修正をお願いします。

職業奉仕委員会

職業奉仕とは先ず自分の職業を通じて社会に奉仕する、自分の職業はロータリーから貸し与えられているのだと言う気持ちを会員に訴えることが必要です。若い人達が居つかないのは、待遇の問題もあるかもしれませんが、先に述べた気持ちで若い人達を訓練する必要があるのではないのでしょうか。「手続要覧」の「業務を通じての奉仕」の中に企業の社会的責任と言っています。又「四つのテスト」を社会の人に教えることも必要です。「事例研究」も良いと思います。なお「売手買手の問題」は今はパンフレットから無くなりました。

社会奉仕委員会

七重浜16号跡風慰霊碑周辺の緑化は大変結構で、是非やつていただきたい。又地域社会はたえず変化するので「Lagy Movey」でないよう努力すると御意見もよろしい。(亀田八幡宮で毎朝太鼓で時をしらせている方を表彰する提案が遠藤委員長よりなされました)

国際奉仕委員会

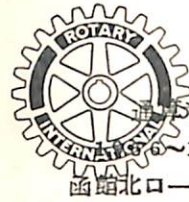
これは以前と全く変わりましたので、パンフレットをよくお読み下さつてからお考え下さい。クラブ単独では出来ないことが多いので協力が必要でしょう。先進国のロータリーは後進国のロータリーに力を貸し与える必要があります。又交歓地区、交歓クラブは相手がブラジルとアルゼンチン(スペイン語とポルトガル語)なので困つており、目下思案中です。とりあえず各クラブから写真を集めて送つてみるつもりです。別に個人対個人、クラブ対クラブでプライベートに交歓するのは差支えありません。

ロータリー文献紹介

手続要覧 幹事必携 新役員名簿 会員の種類 職業分類 奉仕の冒険 奉仕こそ我がつとめ ロータリー会員育成の指針 出席規定 事例研究 事例研究ととりくみましょう ロータリー問答 国際奉仕 世界への窓 組合わせ地区との問題 あなたの若人を知れ あなたの地域社会を知れ 今日の目標 ロータリー奨学資金の使い方 雑誌委員長のパンフレット 平和への七つの道 日本語版文献のカタログ及び注文書(一度がまんして目を通される一形から入ると成る程とうなづけるでしょう)

神原副会長謝辞

御指導誠に有難うございました。ガバナーの御期待にそうよう頑張ります。



本日のプログラム

卓話 函館におけるハーバードイソ領事の遺難事件、

前市立函館図書館長 元木省吾氏

司会 成田副会長 斉唱 君が代 奉仕の理想

ゲスト オ350地区ガバナー 岡田正雄氏

ビジター 戸倉敏男君(帯広 織維品小売)

村上英一君(森 文房具販売)

梅津福次郎君他7名(函館) 金子金四郎君他9名(函館東)

成田副会長の挨拶

この度岡田ガバナーが公式に御訪問下さいました。昨夜のアッセンブリーではガバナーからロータリーのあり方について懇切なる御教示をいただき、私個人としても3年目にしてようやくロータリアンとしての自覚が出来たようで、厚く御礼申し上げる次第です。又今回の公式訪問について、函館及び函館東の両クラブにお世話になり有難うございました。なお折角の御訪問に、当クラブの飯田会長が入院中で出席出来ないのが残念で、よろしくとのことでした。なお会長の全快を記念に是非100%出席をやつてみたいと思います。

幹事報告

1. 例会終了後ガバナーを囲んで記念撮影を致します。理事会は延期します。
2. 札幌西クラブでは8月中の例会場を「ロイヤルホテル」に変更します。
3. 「ロータリーの友ニュース」及び「R.I. ニュース」が来ております。
4. 1966~67年度の公式名簿が来ました。
5. 新年度の名簿作製のため、変更後の電話番号をお知らせ下さい。
6. 岡田ガバナーは明日13時45分の特急でお帰りになります。
7. 飯田会長の経過は良好で、12~13日頃退院の予定だそうです。
8. 北村会員が甲府R.C.より、パナーをいただいて来ました。

ニコニコ、ポツクス

渡辺分区代理より御寄贈があり、有難うございました。

岡田ガバナーのお話

只今御紹介のありましたガバナーの岡田でございます。所属は旭川クラブで御覧の通り若く大正8年の生まれでございます。昨日こちら北クラブのアッセンブリーで活動状況を拝見しましたが、非常に活発な御意見の交換がございまして、4時間15分もの時間を要しました。誠に内容があり、しかも先程初代会長さんから非常に楽しい会合であつたとの御言葉があり、私も何かお役に立つたようで喜んでおります。ただこちらの飯田会長さんが不慮の御災難にあわれてお会い出来なかつたのが一番残念でございました。本部に出します報告書の中で、会長さんのリーダーシップについての項目がブランクになるのは困つたことでございます。然しお聞きしたところによると、会長さんは快方にむかわれ、しかもお人柄も立派で皆さんの敬愛の的であるとのことで、どうぞ一日も早く御健康になられ、北クラブのリーダーシップをおとりになつて遺憾なく活動の妙を発揮していただくことを心から念じておる次第でございます。

北クラブの会員の方々に色々な印象を述べさせていただきますが、率直に言つてロータリー・インフォメーション(情報)、ロータリーの教育、知識というものを皆さんが勉強していただきたい、これが先ず一番最初の感想でございます。そこで私は私なりにロータリーの歴史といつたようなものについて、皆さんにお役に立てば幸せと思ひ、これからお話することに致します。

御承知の通り今から約60年前(1905年)シカゴで弁護士のパール・ハリスが、石炭商のシーエム、鉦山技師のローア、洋服商のショーレイと、ローアの事務所2月23日の夜会合を持つたのが最初の出発でございます。当時のシカゴは経済不況で、巷に失業者があふれ、犯罪の街でもあり、これでは我々の市民生活も脅かされる、我々の社会をどういふふうにしたらよいか、そういう理想に燃えて集まつたのがロータリーの誕生でございます。そしてそれが順番に会合を持つたということで、ローテーションからロータリーになつたわけでございます。ロータリーの発祥の考え方の基礎には、社会の御役に立とう、社会を明るく良くしようとの気持があり、これはイズムを越えた、言わば実践の道德活動でもございますし、それが運用の妙を得て多くの国に同感者があらわれ、1910年にカナダに、翌年イギリスにロータリークラブが出来上りまして、1922年に国際ロータリーという名前になつて現在に至り、その後の発展については皆様御承知の通りでございます。

ロータリーの考え方の中で大切なのは、先ず知り合いを拓めてゆくことではないかということです。世界でたつた一つしかない函館北クラブの会員に皆様がお入りになつていただいております。そして北クラブを通じて皆様はR. I. になつております。私達会員は北海道350地区ばかりの会員と知り合い

を拓めてゆくばかりでなしに、日本全体、更に広く世界中のロータリアンと友愛を楽しむわけでございます。そういう機会はいくらでもございますし、私も多くの経験を持つております。エバンスが「誰かがロータリーを与えてくれたから、我々は今ロータリアンになつて、ロータリーの親睦を楽しんでいる、だから我々は誰かにロータリーを与えなければならぬ」と言つておりますが、誠に同感でございまして、私達の受けた恩恵はお返ししなければなりません。

ロータリーに入つて違つた人達と知り合いになることは、視野が広がり、自分の心が大きくなります。そして社会のために何かお役に立とうということをお心掛けて参りますと、自然と自分の職業を大切に、自分の職業を通じて社会のためにお役に立とうという気持にもなつて来るのでございます。最初に「He profits most who serves best」という言葉が出来ましたが、更に「Service above self」という言葉に昇華したのでございます。これは亡くなられた鈴木大拙さんの言われた「東洋の心」とも通ずるような気がしまして、私はこの言葉が大好きなのでございます。

ロータリアンはそれぞれの職業の代表者が集つて会をつくつてゐるわけですが、それぞれの業態で、それぞれの仕事の中でリーダーシップをとつておられる筈です。従つて常に周囲の多くの面に心を配り、少しでも世の中のお役に立とう、或るいは自分の身边からロータリーの心を醸し出してゆくという具合になるのが本当の姿だと思ひのであります。それが地域社会に、そして北海道、日本と拓がり、更にそれを世界に拓めようというわけであります。然しそこには限界を感じるかもしれません。国家の問題になりますと、これ程利己的な存在はないからです。これにつきましてパール・ハリスは、国家間の問題は辛棒強く、丁寧な態度と、周到な用意を払つて、繰返し繰返し接触を続けて行つたほうがよろしい、そこからお互いに理解が生まれてくるに違ひない、そういう希望を持つてロータリアンは接すべきである、と言つております。

以上申し上げましたように、「ロータリーの心」とは何か理想主義といつた感じがするのでございますが、然し理想主義でありながら、とにかく身边の事柄から少しづつ奉仕の誠を尽してゆくことと言ひ同志の集まりであります。ですから他のクラブにメークアップされたり、大会に出席された時「非常にロータリアンらしい人」を御覧になることが多いと思ひます。仕事をすることは徳を積むのであるという考え方がロータリアンの中にあるような気がするのです。然しロータリアンにも色々個性があるわけでありまして、そういう個性を越えて誰とでも親切にし、誰とでも親しくして親睦を楽しんでゆくことと氣持は、皆さんお持ちになつてゐると思ひます。そのためにはロータリーインフォメーションを兼ねた炉辺談話など結構でございますが、一つ盛んにそのよう



通算才126号

1966~1967-8-10
函館北ロータリークラブ

第110回例会

例会場 明治生命館
例会日 毎週水曜日
12.30~13.30

な会合をお持ちになるよう御努力をしていただきたい。そして親睦を楽しむという考え方の中に、ロータリーの知識を増し、認識を深める努力もしていただきたい。昨日訓練とか躰とか申しましたけれども、形から入ることも大切でございまして、一度洗礼を受けるという気持で是非会合をお持ちになつていただきたいと思ひでございます。以上がクラブ活動でございます。

職業奉仕について申し上げますと、我々の職業は、一人一人の人格を信頼してロータリーから貸し与えられたものでございます。だから私共としては当然自分の職業を通じて接するすべての人々に対して、その職業の水準をレベルアップする責任もございまして、又仕事を通じて何かしら世間のお役に立ちたいと願ひわけでございます。ロータリアンの職業奉仕は根本的には個人的な責任でございますが、ロータリークラブとしてはそれを訓練し推進するわけです。

更に社会奉仕でございますが、御承知の通り社会はたえず変貌してゆくわけでございます。これを的確に捕えてそれに対応してゆくように考慮を払わなければなりません。エバンスは地域社会が必要としているものを発見して、それに奉仕せよと言つております。

最後に国際奉仕でございますが、私共の地区の殆どがロータリー奨学資金に対して支持クラブになつていらつしやることは感謝にたえない次才ですが、本年は奨学生の選出期にあたつております。ですから一つ「手続要覧」をお読みになりまして、適格な方がいらつしやつたら推選していただきたいと思ひわけでございます。又相手地区の同意を得たら、優れた能力の人があればどんな職業でもよく、専門的訓練ということ、旅費と滞在費が支給されて海外に1年間勉強に行く道も開かれております。それから研究グループの交換(2カ月)に対する旅費の支給もR.I.でやつております。なお特別お願いしたいのは外国に手紙を出す場合に、返事を待たずにこちらから追つかけ追つかけ出すというより辛棒強い根強い態度でなければならぬこととあります。

函館北クラブも創立3年目を迎えました。これからが人格をつくる大事な年になつていられるわけでございます。そのためには先ず才一に出席を高め、色々なクラブや大会に出席して刺激を受け、又文献をよく勉強されてロータリーの知識を身につけることが必要でございます。近くに立派な先輩クラブもございまして、一緒に協力して、一日も早く函館北クラブとしてのユニークな特色を打ち出した良いクラブになつていただきたいと心からお願い致しまして御挨拶と致します。

前回の確定出席率 83.87% (出席22名 メ・ア4名)

参考 函館94.29% 函館東95.95%

次回(8月17日)のプログラム '子供のしつけいろいろ' 俣野会員

本日のプログラム

会員卓話 '子供の巖いろいろ' 俣野純夫君

- 司会 成田副会長 斉唱 手に手つないで
- ビジター 五十嵐長寿君他15名(函館) 辻常太郎君他7名(函館東)
- 成田副会長挨拶

先週会長さんが入院不在中にガバナー公式訪問がりましたが、幸い函館及び東クラブの御世話になり、どうにかピンチを切り抜けることが出来、有難うございました。ガバナーはエバンス会長の10項目を強調して帰られました。私達はそれをよく心に刻んで社会に奉仕したいと思ひます。又ガバナーより、ニコニコボックスに金一封を頂戴しております。なお巖野会員と北村会員が病氣全快で御出席され、お祝い申し上げます。

幹事報告

1. 本日の例会終了後に定例理事会を行ないました。
2. 我々のクラブで始めて新さんがシニアアクティブ会員になりました。
3. 公式訪問の記念写真を全員にお届けします。1枚100円です。

北村会員挨拶

春以来具合が悪く、6月に東大病院を訪れ、その指示で甲府国立病院に約2カ月入院しました。整形外科なので甲府R.C.に毎週出席出来ました。甲府のロータリアンは友情が厚く、花束を受け、回復を祈つてくれ、知らない土地でも大変心強く感じました。私はこの感激を忘れず奉仕したいと思ひます。皆様も他クラブの方がお出でになつたら是非暖かくお迎えして下さい。

出席報告

1. 本日 会員数31名 出席18名
2. 前回の確定出席率 80.65% (函館97.22% 東100%)
3. 7月の平均出席率 83.87% (函館95.97% 東90.07%)

次回(8月24日)のプログラム

卓話 '函館におけるハーバー独乙領事暗殺事件について'

前市立函館図書館長 元木省吾氏